

地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業を活用した事例
(H22経営体育成交付金)

補助対象者名称：段 優一
事業実施主体名称：鹿児島県錦江町
内 容：トラクター、ロータリー導入
事業 費：7,126千円（国費：2,137千円）

1 事業取組前の状況

(1) 補助対象者の経営状況

補助対象者は鹿児島県錦江町において、夫婦、息子3人による甘しょ、ダイコンの生産に取り組んでいた。経営面積は7.0haで、中核的な農家として地域農業の中心的な役割を担ってきた。

(2) その他

錦江町池田地区は大隅半島に位置しており、葉たばこや甘しょなどを中心とした農業が営まれている。主幹作物である葉たばこの生産縮小等による経営転換を余儀なくされた農家も現れており、遊休農地が散見される中、錦江町においては担い手農家への農地の集約化を支援し、受託作業や営農組織化などに取り組む経営体を育成・確保していくことが課題であった。

2 取組の概要

平成22年、経営規模の拡大と新規作物の導入による所得増加を図るためトラクター等を導入、以前から薬物野菜に取り組みたい意向を有していたこと、地域においては薬物野菜への取組が見られなかったこと、販売先の確保や販売価格の優位性等からハクサイを導入することとした。

また、規模拡大に当たっては、ハクサイの収穫時期を1～2月に設定した上で自然条件が適した隣接の鹿屋市を選定し、借地による規模拡大

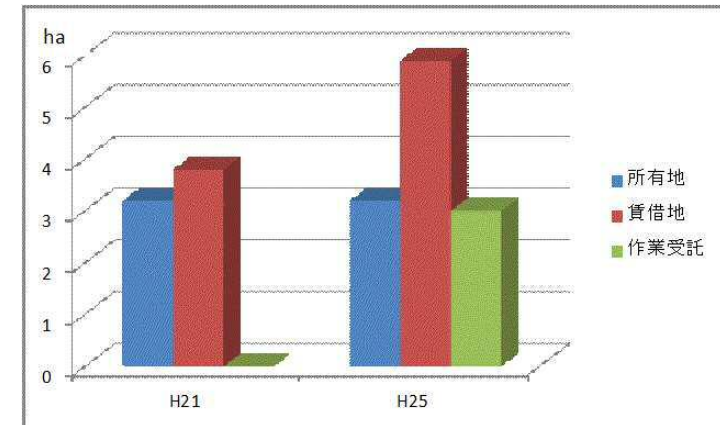
を図った。

3 経営改善の効果

経営の規模拡大と新規作物の導入により、平成25年現在、売上額は事業実施前に比べ2倍以上に増加した。また、農業機械の導入によって以前からの課題であった労働力、労働時間が制限される中での収穫作業と植付け準備作業の併行作業が短時間で可能となった。効率的、安定的な農業経営が可能となったことにより後継者の農業経営に対する意識も高まり、将来的なビジョンも確固たるものとなった。

<規模拡大の状況>

	H21	H25
所有地	3.2ha	3.2ha
借入地	3.8ha	5.9ha
作業受託	0ha	3.0ha



<経営内容>

従事者	H 2 1 家族労働者 3 人	H 2 5 同左
甘しょ	7ha	9ha
ダイコン	1.5ha	—
ハクサイ	—	4.5ha

4 成功の要因

経営の規模拡大にあたっては、農地所有者による「貸したら帰らない」との意識が依然として強く、特に入作者に対しては農地を貸したがない状況であったが、補助対象者の農業に取り組む姿勢や気遣いは地域からも評価され、以降の借受面積の増加に結びついている。

また、農業経営のポイントは如何に販売先を確保するかであるとし、目先の単価ではなく、将来的に安定的な収入確保という観点から契約先を決定している。この結果、計画的に経営規模拡大にも取り組むことが可能となり、現在の農業経営に結びついている。

<その他の波及効果>

甘しょ、葉たばこ、ダイコンの生産が中心の地域における補助対象者による新規作物導入とその成功は、周辺農家にも波及、葉物野菜生産への取組が広がり、地域農業の新たな展開のきっかけとなった。

また、耕作放棄地の解消や収穫時の雇用創出（繁忙期に3～4名のパートを雇用。将来的には更に常時雇用1～2名を計画）、高齢化が進む中での作業受託面積の拡大は、地域の農地の有効利用や地域活性化に寄与している。

5 今後の経営改善の方向

現在は個人経営であるが将来的には法人化を検討しており、経営の内容の明確な把握と効率的な経営管理、また、就業条件が整備されること

により常時雇用によるハクサイ、キャベツ等葉物野菜の生産拡大を行い、農業経営の更なる効率化、安定化を目指している。



【甘しょの生産ほ場】



【段さんと導入機械】